

1 第4次広島市安全なまちづくりの推進に関する基本計画（案）について

委員名	意見（要旨）	対応等
橋本委員	第4次計画の計画期間内に成年年齢を18歳に引き下げる改正民法の施行（2022年4月1日）もあり、例えば高校3年生の中に成年と未成年が混在して、高校生本人がこの区分を自覚しないままトラブルに巻き込まれたり、自らが引き起こすことになったりするケースがあるかもしれないと考えられる。計画案に賛成する。	—

2 その他意見

委員名	意見（要旨）	対応等
狩谷委員	第4次基本計画（案）については、図表も多く、わかりやすい。工夫が感じられ良かった。多くの人の目に留まることを望む。	—
木原委員	実際に現場にあっては、なかなか基本計画の取組が浸透しにくいものがあるように思う。 年齢別で女性のみサミット、又中・高校生たちのサミットのようなことが行われれば、安全なまちづくりに対する理解が深められるのではないかと。 犯罪防止にも皆で声をかけ合うことで抑止力につながりはしないかと思う。 子ども、女性、高齢者に被害が多いように感じるが、これは町内、自治会、各諸団体の動き方（働きかけ）、自分の置かれている立場、理解力、認識が不足しているのではないかと。 それぞれの立場にある人は率先してリーダーシップを発揮していただきたい。	—
柴田委員	基本計画（案）のP15の「包摂的」という語句をもう少しわかりやすい言葉に置き換えて欲しい。	「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」で掲げられた目標の定義（日本語訳）なので、原案のままとします。
柴田委員	基本計画（案）のP21の「副次的」という語句をもう少しわかりやすい言葉に置き換えて欲しい。	犯罪被害者等基本法前文の引用部分であるため、原案のままとします。
高野会長	コロナ渦で広島市の犯罪の状況は変わったか。人の流動が減り、街の活力が停滞している現状と地域防犯データの相関があるのか気になる。	令和2年の市内における刑法犯認知件数は、暫定値で5,727件、対前年比較で▲20.4%と大幅に減少しており、コロナ渦における外出自粛が一因と受け止めています。 <small>（参照）広島県警察ホームページ <a href="https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/police/toukei-cwt.html">https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/police/toukei-cwt.html</a></small>
橋本委員	令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会合や講演会が中止となり、オンライン会議や介護施設でのオンライン面会が一気に増えた。zoomやLINEアプリとWi-Fiということを身近に知るにつけ、フリーWi-Fi（野良Wi-Fi）に潜んでいる危険性に気付かされるようになった。スマートフォンの某ショップで開催されている「メール」「電話」「ネット」等のスマホ教室に参加して教わり始めたが、他に家族に勧められて初めてスマートフォンを購入したという同じ60代の女性も参加されていた。ネット被害に遭わないよう、今後も学んでいきたいと一市民として思っている。	—
原田委員	市民の体感治安向上のためには、目に見える形での不安の払拭が不可欠と思われる。例えば、夜間の少年のたむろや暴走行為が該当すると思われるが、現在の広島市の状況は少年対策が功を奏し、大きな不安感はないと思われる。 その中で、若者の特殊詐欺への加担防止活動を盛り込むことは良いと思われる。	—
柳原委員	犯罪被害者等への支援体制づくりについて 安心安全なまちづくりはとても大切なことである。それでも不幸にして犯罪の被害にあう人がいる。経済的にも心理的にも多くの負担を強いられる。ともに理解し助け合う共助の精神とともに、市として経済的な支援してもらえる体制ができるといいと思う。	—